

# 平成 28 年度 青少年委員会活動報告

## ■はじめに

平成 23 年に利用を休止した富田林市立公会堂と富田林市立福祉青少年センターを統廃合し、公会堂跡地に新施設を建設するという計画が持ち上がりました。

計画では、公会堂を除却したのち、跡地に新施設を建設し、平成 29 年 3 月には竣工、市に引き渡されるというものでした。

新施設は、青少年センターの建て替えに留まらず、全く新しい施設として生まれ変わるといふもので、新施設で実施する事業についても、これを機に見直しが必要でした。

新施設のコンセプトは、若者の育成拠点で、若者の育成を主とし、地域交流の促進や生涯学習の推進などを新施設の事業の柱として位置づけました。

青少年センターは、富田林西口駅や富田林高校、河南高校に近い位置にあり、自習室を設けていることから、学校の定期テスト前や大学入試の季節になるとかなり混雑しているものの、そうでないときは学生の利用もまばらです。また、私たち職員が、学生やサークル活動でやってくる大人の方たちと会話したり交流したりすることもほとんどありません。

さらに、青少年センターの施設を利用した事業も、一部を除き、取り組まれておらず、新施設においては、従来の職員の意識も含めて、変えていく必要がありました。

新施設を青少年の育成拠点にしていくにはどうすればよいか。

まずは、青少年が新施設に集まってきてくれるというのが第一で、そのためには「ここに集まれば楽しい。面白いことができる」と思ってもらわなければなりません。

青少年が面白いと思うことを主体的にやっ

てみたり、チャレンジできる取組やしかけがあったらいいのに、と考えました。

そのしかけの一つが「青少年委員会」です。新施設が開館するまでに、高校生や大学生を中心とした若者に集まってもらい、新施設をどんな風に使ったら面白いか考え、新施設ができたあとも、イベントなど自分たちで準備、実施してもらいたいと考えました。

## ■青少年委員第 1 期生誕生

先述のとおり、私たち職員は、青少年センターにしながら、学生たちと話をすることもなく、どう接していいかもわかっていませんでした。

そんなとき、「ゲキトモ」代表の谷川うりさんと話をする機会がありました。ゲキトモという団体は、青少年センターで度々活動をされており、主に演劇を通じて若者の育成に取り組んでおられます（現在、NPO 法人ゲキトモエンターテイメント）。

谷川さんも、青少年委員会を立ち上げて、青少年委員会中心に新施設を盛り上げていくという案に共感してくださったので、谷川さんに青少年委員会のファシリテーターをお願いしました。谷川さんは、普段から学生と交流があり、学校のスケジュール（定期テストや文化祭・体育祭、部活など）に詳しいので、ファシリテーターとしてうってつけでした。

平成 28 年 5 月に市広報で青少年委員を募集し、市内の全中学校にチラシを配布し、市内の府立高校、私立高校、大学に説



明にあがりました。また、ゲキトモ所属でイラストを描くのが好きな女性に絵を描いてもらいました。

富田林高校や大阪大谷大学が学生を委員として推薦してくださったことや、ゲキトモからも数名参加してくれたので、結果 28 名の青少年委員が登録してくれました。

中学生	1
高校生	16
大学生	10
30 歳未満	1
合計	28

### ■青少年委員会いよいよ始まる

平成 28 年 6 月 4 日（土）午後 3 時、いよいよ第 1 回青少年委員会が始まりました。

まず、新施設の概要や青少年委員について、青少年委員へ簡単に説明しました。

それから私たち職員も参加して全員で自己紹介しました。これでみんなの緊張も少し和らぎました。

次に、本日の本題①「活気ある施設と青少年に役立つ施設を考える」グループワークを行いました。

「活気ある施設」「活気のない施設」「役に立つ施設」「役に立たない施設」を予め用意したフセンに各々書き出しました。

#### 青少年委員の意見(抜粋)

##### 活気がある

- ・館内でBGMがかかっている。
- ・ライブやイベント、お祭り、ゲーム大会などを実施。
- ・職員があいさつしてくれる。
- ・世代間の交流がある。

##### 役に立つ

- ・勉強や進路の相談ができる。
- ・コンビニや食堂がある。
- ・施設内でアルバイトができる。
- ・自由に Wi-Fi が使える。
- ・自販機、冷水機がある。
- ・学校とは違ったことができる。
- ・自習室などに本棚を設置し、参考書などを置く。
- ・部活ができる。

それをテーブルごとに用意した模造紙に貼りだし、班別に発表しました。



続いて、本日の本題②「利用の手引き（案）を見直す」グループ

ワークを行いました。

利用の手引きは、利用したいと思う人が、それを読めば大体わかってもらえるように作られたものです。青少年委員には、これをたたき台にして、手引きの見直しとともに新施設の運用について考えてもらいました。

施設概要のページに各部



屋の紹介や注意事項を載せていて、その記載内容について各班で意見交換を行いました。

発表の中で興味深かったのは、「学生は会議なんてほとんどしない」という発言で、「〇〇会議室」という名称や「会議に使えます」という表現が適切かどうか検討することにしました。

### ■第2回開催！委員を質問攻めに・・・

第1回青少年委員会が無事終了したのも束の間、私たち職員は休館日や開館時間、登録区分や利用時間など、新施設の運用で決めておかなければならない項目を決めかねていました。

そこで、新施設の利用主体である青少年に意見を聞くのが一番だということで、次回の青少年委員会でこちらが知りたいと感じていることを全部聞くことにしました。

第2回青少年委員会を平成28年7月9日(土)午後3時に開催しました。



冒頭で

前回のお  
さらいを  
したあと、  
こちらが  
用意した

「質問シ

ート」の質問に答えてもらいました。

各自で質問の回答をしてもらった後、同じ回答を選んだ者どうし集まって、発表してもらいました。

続いて、「新施設の愛称を考えよう！」のワークショップを行いました。

事前に、青少年委員の皆さんには「愛称(ニックネーム)を考えてきてください」という宿題を出していました。それを各自白紙用紙に油性ペンで書いて、一人ひとり発表しました。

その後、下記の手順に沿って愛称の案を選びました。

委員がそれぞれ考えた愛称をA4用紙に記入し、広いテーブルの上に一斉に出し、そのテーブルを委員で囲む。左まわりに委員一人ひとりが自分の気に入った愛称が書かれた紙を1枚ずつとる。最後に1枚残った愛称の紙は人気なかったということでポツになり、テーブルから除く。ポツ以外の先ほどテーブルからとった紙を再びテーブルに戻し、また一人ひとり1枚ずつとるというルールで、最終的に残ったものが愛称の候補となる。

最終的に、「とん学」と「Topic」が残り、みんなで多数決をとりました。結果、「Topic」が選ばれました。

今回から感想や意見などを書いてもらうアンケートをとるようにしました。「愛称を決めるのがハラハラ、ドキドキとても楽しかった！」という感想がたくさん寄せられました。



アンケートの中には「新しい施設づくりに私たちも関わって

幸せです」といったコメントもいただき、私たち職員も良い青少年が集まってくれて本当によかったですと思いました。

### ■第3回 地域の大人も参加しました

質問シートの意見回答をとりまとめ、集計表を作成しました。

時を同じくして、青少年センター利用者へも別のアンケートをとっていて、これらが新施設の運用案を検討する上で、大いに役立ちました。

最終的に新施設の運用案は、生涯学習課で決定するのですが、何とか青少年委員の意見を条例にまで反映させたいと考えました。

12月議会で新施設の条例案を上程しようと計画していましたので、青少年委員の意見を踏まえて案を作成するとなると、9月に開催する次回の青少年委員会で、委員の意見を最終調整する必要がありました。

第3回青少年委員会を平成28年9月17日(土)午後3時に開催しました。

今回の青少年委員会は、地域や多世代との交流も新施設で取り組みたいという思いから地域の大人がゲストで参加しました。地域の大人は、青少年指導員から3名、PTA役員から1名、社会教育委員から1名参加いただきました。

ゲストは、これまでの経過や新施設の概要を知らないなので、おさらいから始めました。

続いて、自己紹介ですが、もう3回目ともなると青少年委員のスピーチもずいぶん上手になってきました。



次に、「地域にどんな課題があるか？どうすれば解決できるか？」についてグループワークを行いました。新施設ができることで解決できそうなこと、逆に解決が難しいことについて、話し合いました。

続いて、「フリースペースの活用を考える」ワークショップを行いました。

「フリースペース」は、現在「交流スペース」と呼んでいますが、新施設の顔ともいえる場所であり、また新施設が成功するかどうか鍵をにぎる場所でもあります。

まず、新施設の設計を担当した榎谷設計の小西氏にフリースペースのコンセプトについて語ってもらいました。

続いて、班ごとに普段使いの場合とイベント使いの場合に分けて検討しました。普段とイベント、それぞれのフリースペースのイメージ図を各机に用意して、そこに各自思いついたこと



をフセんに書いて貼っていました。意見の中には「大階段で流しそうめんがしたい」といったユニークなものもありました。

最後に生涯学習課から、利用の手引きの変更点について報告しました。

休館日・開館時間や利用者登録、施設の利用時間など、前回の質問シートや青少年センター利用者アンケートを元に生涯学習課で練り直

した項目について報告しました。

#### ■第4回 事業をみんなで考えよう

前回の青少年委員会から程なくして、委員の中から不満が出ているという声を聞きました。

前回の生涯学習課による報告の中で、「施設の利用申請は平日の午前9時から午後5時30分の間に来てください」と言ったことについてでした。彼らが言うには、学校が市外にあたりすると5時半までに来れない。また、質問シートの集計表では、晩でも受付してほしいという意見が多数を占めていたではないか、というものでした。

どうして私たち生涯学習課が平日の5時30分に固執したかということ、それは職員の勤務時間に合わせたことで、職員でないと現金を取り扱うことができないという法令があるからでした。

何とか晩に受付する方法はないか、課内で、検討した結果、券売機を導入し、窓口では現金をさわらないよう、運用を変更することにしました。

もう一つ、前回の青少年委員会の後、気になることがありました。

それは、1回目、2回目に比べて参加者が減っていたことで、前回報告したように、ある程度、新施設の運用案(=利用の手引き)は固まりつつあるため、青少年委員の中には「やりきった感」が充満しているのでは？と思われました。

第4回の開催は平成29年2月で、第3回の9月から5ヶ月も空きます。

当初は、5回目の青少年委員会で委員によるプレゼンテーションをしてもらい、4回目は、その準備にあてようと考えていました。しかし、「プレゼンをすることで、それが今後どう繋がっていくのか？大人たちの都合ではないのか？」そう彼らは考えないだろうか……。当初

の計画を見直した方がいよいよいに思われました。

谷川さんとも話し合い、第4回の内容は、新施設が建った後に、どんな事業をしたらいいかについて考えてもらうことにしました。

来年度の事業に関して、これまでの運用案と同様、青少年の意見を聞きたいと感じていたこともあり、この内容にしました。

**第4回青少年委員会を平成29年2月4日（土）午後3時に開催しました。**

久しぶりの青少年委員会でしたが、新しい委員が入ってくれたり、都合で来られない委員の代わりの学生が来てくれたりと、前回より多くの参加がありました。



最初に、生涯学習課から利用の手引きの見直しについて説明し

ました。これまで利用の手引きの見直しを通じて、新施設運用の検討を進めてきましたが、いよいよ形になってきました。

続いて、「年間活動計画（提案）を作ろう」のワークショップを行いました。

画面で、他市の都市型青少年施設において実際に取り組まれている事業プログラムを4つのテーマに分けて紹介しました。

①「学び・学習」は、生涯学習課が青少年に講座などのメニューを提供するもので、②「学び合う・楽しみ合う」は、青少年が主体的に学ぶもので、学生同士で勉強を教えあうといったものもこれに含まれます。③「青少年のためのイベント」は、青少年による青少年のためのイベントなどです。④「地域活性化のためのイベント」は、③と同じイベントでも地域も巻き込み多世代交流するといったものが該当します。

これら4つのテーマごとにそれぞれ委員が班に分かれ、どういった事業を新施設でしていくのがよいか話し合いました。

後でグループごとに発表してもらいましたが、お金



をかけなくてもできる、やろうと思えばすぐにできるといった内容のものも多くあり、とても参考になりました。

## ■第5回 いよいよ最終回

新施設の工事に遅れが生じたことから、平成28年度内の完成が困難になりました。

新施設の名称については、これまで様々検討してきましたが、今ひとつ決めかねていました。

理事者も交えて庁内で検討した結果、最終的に「富田林市きらめき創造館」という名前になりました。

「きらめき創造館」という名前になったところまではよかったのですが、「きらめき創造館」という名称自体が愛称のようでもあるとの理由から、あえて愛称は付けないという方針が出されました。

第4回青少年委員会において、青少年委員の前で、愛称が使えないという報告をしました。

第4回青少年委員会が終了し、第5回を開催するまでに、また動きがありました。

それは、名前を「きらめき創造館」より「Topic」を前面に出していこうという、これまでとは全く逆の思いがけないものでした。

**第5回青少年委員会を平成29年3月11日（土）午後3時に開催しました。**

まず、生涯学習課から、利用の手引きの見直しの件について報告しました。

続いて、「Topic」という愛称が使えるようになったので、これからは「Topic」と呼ぼう！と呼びかけました。

青少年委員会最終回は、これまでのようなワークショップで話し合ったりするのではなく、茶話会みたいにしようと、谷川さんとも話をしていました。

茶話会に入る前に、青少年委員の皆さん全員に今年一年を振り返って、1分間スピーチをしてもらいました。

まず、私たち職員が驚いたのは、委員の多くが、青少年委員会を通じて、自身が成長できたと発言していることでした。

「青少年の成長につなげる」は、青少年委員会の事業目的の一つですが、彼らが口々にそう言ってくれたことで、私たち職員も「やってきてよかった」と安堵することができました。

また、彼らは、既存の施設を変えていくというのではなく、「Topic」のような全く新しい施設を、1から自分たち青少年で運用などを考えるというプロジェクトに魅力を感じ、それに関われたことが嬉しかったと言ってくれました。

「人前で話すのは苦手」といていた学生も、周りの青少年委員に刺激を受け、今ではみんなの前に立ち、立派にスピーチをしている姿に感嘆しました。

その後、全員で集合写真を撮りました。



そして、いよいよ茶話会となりました。短い時間ではありましたが、学校を超え、学年を超え、私たち大人とも交流し、和やかな雰囲気の中、無事、平成28年度の青少年委員会を締めくくることができました。

## ■これからのTopic・青少年委員会

青少年委員会を立ち上げるまでは、生涯学習課の中でも懐疑的な見方がされていました。青少年委員の発言をどこまで汲み取るか？とんでもないことを言いださないか？といったものでした。

この件に関しては、全く杞憂に終わりました。むしろ、彼らは私たちが想像していた以上に大人でした。

彼らがこれまでに出した意見は、そのほとんどが「なるほど」と思えるものであり、彼らの意見なくしては、新施設の運用案はまとまらなかったことでしょう。青少年委員会の意見を踏まえて、利用の手引きや条例案が作成されたことは、これまでの彼らの取り組みの成果です。

他の自治体において、一部青少年にも意見を聞いた・参加してもらったといった事例はあるでしょうが、富田林市でこれまで取り組んできたような青少年が全面的に関わったというのは、ほとんどないのではないのでしょうか。

Topicは、平成29年9月オープンをめざして、着々と出来上がりつつありますが、一年前はというと、新しい施設で利用者が少なく、利用者同士の交流もない「残念な施設」にならないか、とても不安でした。

でも、今は違います。青少年委員会がこれからも続けば、彼らが施設に関わってくれば、きっと活気ある施設、役に立つ施設になるはずですよ。そうなることを信じて——。

